

委託事業者独自事業

東 分 館

公民館・図書館連携 教育事業 NPO 法人独自事業	ひがし子ども司書養成講座 2022 ーめざせ！キッズ・ライブラリアンー
--	--

目 的 文部科学省の第四次「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画」で「子ども司書」が明記されるなど、読書推進の取り組みの1つとして、各地でその養成が行われています。子ども達が司書の知識や技術を習得することで読書経験を深めると共に、友達や家族、地域の人たちに読書の楽しさや素晴らしさを広める子どもの読書推進リーダーを養成する機会を提供することを通して、子どもの読書活動の推進を支援することを目的とします。

日程・内容・講師

回	日程	内 容	講師・指導
1	7/16	開講式 図書館講義① ～司書の仕事・小金井市の図書館について～	図書館東分室職員
2	7/23	図書館講義②～NDC・本の装備について～	図書館東分室職員
3	7/30	手製本体験～自分の手で本を作ってみよう～	本間 あずさん(空想製本屋主宰)
4	8/20	図書館講義③～読み聞かせについて～	図書館東分室職員
5	8/27	図書館実習～排架・返却業務体験～ 閉講式	図書館東分室職員

※いずれも土曜日、午前10時から正午まで

場 所 第1回、第3回 小金井市公民館東分館 学習室A・B
それ以外の回 小金井市図書館東分室、小金井市公民館東分館 家事实習室

募集方法 市報6月15日号、月刊こうみんかん6月号、チラシ、ポスター、市HP、東センターHP、東分館ツイッター
申込順 電話または直接

対 象 市内在住・在学の小学3年生～6年生、7月16日のみ原則として保護同伴

人 数 募集 8人 応募 7人
受講 7人(男性0人、女性7人)
延べ参加者 30人

担当企画実行委員 矢部 響子

担当職員 倉本 恵子(公民館職員)、武井 真(図書館職員)

担当職員感想 約1ヵ月半に渡る連続講座でしたが、参加した子ども達は楽しみながら司書のお仕事を体験することが出来ました。家庭・学校・地域での読書推進リーダーを養成する講座となりました。

参加者感想 ○むずかしいことがいっぱいあったけど、楽しかったです。とくに、手せい本を作ったのが、糸をどうして本をとじてほんかくてきに作ったのがうれしかったです。またいきたいです。

東 分 館

公民館・図書館連携 教育事業 NPO 法人独自事業	学びのトビラ 宮沢賢治作品の世界
--	-----------------------------

目 的 文学作品を愉しむことは、言葉の美しさに触れながら感性を磨くことに繋がります。また名作といわれる作品は教科書を通して出会うこともあり、世代を超えて読み継がれているものもあります。今回、教科書で一部紹介されている『よだかの星』を中心に上げ、宮沢賢治の作品の魅力や鑑賞の方法を学ぶことを通して、教養の向上に寄与することを目的とします。

日 程 3月18日（土） 午後2時から4時まで

内 容 宮沢賢治の代表作『よだかの星』を中心に上げながら、作品の魅力や鑑賞の方法について座学形式で学習します。

講 師 大島 丈志さん（文教大学教育学部教授）

場 所 公民館東分館 学習室A・B

募集方法 市報2月15日号、月刊こうみんかん2月号、チラシ、ポスター、市HP、東センターHP、東分館ツイッター
申込順、メール、電話または直接

対 象 市内在住・在勤・在学の方

人 数 募集 12人
応募 19人
受講 16人（男性4人、女性12人）

担当職員 倉本 恵子（公民館職員）、武井 真（図書館職員）

担当職員感想 宮沢賢治の人生を振り返ると共に、『よだかの星』を中心に上げながら、宮沢賢治の作品の魅力や楽しみ方について学びました。質疑応答では参加者の方々からの質問が講師に多数寄せられるなど、双方向での学びも深まった講座となりました。

参加者感想 ○宮沢賢治の読み方の基本的なところがわかり勉強になった。第2弾希望します。一人で読んでいると、どう解釈すればよいのかわからなかったのですが、これを機会に続けて読みたい。大島先生ありがとうございました。学びのトビラで取り扱って欲しい作家、三島由紀夫、大江健三郎、遠藤周作、芥川龍之介など。

貫井北分館

図書館貫井北分室・ 公民館貫井北分館連携事業	手製本工房きたまち堂 ～思い出を 綴じる 糸かがりのアルバム～
---------------------------	------------------------------------

目 的 市内在住のアーティストの方から、手製本の仕立て方を学び、アルバムを作る。本の綴じ方の仕組みを理解し、ものを生み出す楽しさを体験する。また、参加者同士が作業や作品を通して交流を深め、生涯にわたって学びが循環する持続可能な地域づくりにつなげる。

日 程 3月30日(木)午後2時から4時まで

内 容 針と糸を使ってアルバム（約B6サイズ）を作り、綴じ方を体験する。

講 師 本間 あずさ さん（空想製本屋）

場 所 公民館貫井北分館 創作室

募集方法 市報3月1日号、市内中学校図書館・宮地楽器ホール・まちおこし観光協会に各20部、本町小学校・第四小学校の5・6年生のみの全生徒配布、ポスター・チラシ、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター 申込順

対 象 者 小学校5年生から25歳までの方

人 数 募集8人 応募8人 受講8人（男性1人、女性7人）
延べ参加者 8人

担当職員 公民館貫井北分館 伊藤智代子、高木貴紀
図書館貫井北分室 宇佐見千映子、苔米地さやか



担当職員感想 参加者の内訳は、小学生5人、中学生2人、高校生1人の8人。参加者は卒業式の写真や、好きなアニメの画像など、それぞれの想いを楽しそうにアルバムに綴っていました。

参加者感想 ○糸でとじる製本は初めてだったので、とても楽しかったです！今度は和本の製本もやってみたいです。アルバム、活用させていただきます。思い出の写真を貼るアルバムがちょうど欲しかったので、良かったです。
○糸で通す作業や外見を装飾する作業が楽しかったです。似たような形で家で作られたら作りたいです！
○とってもおもしろかったです。糸でこのように本ができることが分かりおどろきました。
○とても楽しかったです。教え方がうまくキレイにできました。

貫井北分館

NPO法人独自事業 図書館貫井北分室・ 公民館貫井北分館連携事業	きたまちYAサポーター・ きたまちYAひろば
--	---------------------------

目 的 図書館と公民館の連携事業で、社会教育施設の活用促進と、若者当事者が「きたまちYAサポーター」として参画し学年や学校を超えた仲間と居場所づくりにつなげる。

日程・内容

回	日程	内 容
1	5/19	新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止
2	7/17	「ブック de トーク」夏におススメの本とポップづくり、年間計画など
3	9/18	「ミステリー de トーク」ミステリーをテーマにした本やCDの紹介
4	11/20	「グルメ de トーク」グルメに関する作品紹介と感染症対策に配慮し、防災食ライスクッキーにデコレーション後、黙食など
5	12/18	「わたしのイチオシ！」小説、絵本、マンガなど、“自分が出会った中でイチオシ！”の作品を紹介
6	3/20	「絵本 de トーク」好きな絵本の紹介後、感染症対策に配慮し、ラテアートを作って楽しみ、黙食など

※いずれも日曜日、午前10時から正午まで

場 所 公民館貫井北分館 学習室 CD

募集方法 市報5月1日号、ポスター、チラシ、貫井北センターHP、公民館貫井北分館ツイッター、図書館貫井北分室ツイッター
申込順 電話、メールまたは直接

対 象 者 小学校高学年から25歳くらいまでの方

人 数 中学1年生から大学2年生 9人（男性2人、女性7人）
延べ参加者 15人

担当職員 公民館貫井北分館 伊藤 智代子、高木 貴紀
図書館貫井北分室 苔米地 さやか、宇佐見 千映子

担当者職員感想 中学生が6人、高校生が2人、大学生が1人で、学校や学年を超えた交流をすることができました。また社会教育実習生など3人が第3回目に参加し、「ミステリーde トーク」を楽しみました。

参加者感想 コロナ禍の経験から、自分の好きなことや心の動いたことを通して交流できる、きたまちYAひろばでの時間の濃さをより実感出来る気がします。学校や学年をこえて、また、地域という枠組みの中で出会い、つながれる面白さを知り、経験することができて良かったです。

貫井北分館

図書館貫井北分室 公民館貫井北分館 連携事業	「死生観」を語り合ってみませんか？
------------------------------	-------------------

目 的 超高齢社会・多死社会を迎えて、死が身近な日常となる社会になりつつある。カジュアルに死を語る「デスカフェ講演会・絵本読書会」の参加者から、もう少し具体的に死生観（生きること、死ぬことについての考え方や行動に向き合う）について語り合いたいとの要望を受ける。今回は、公民館を会場とした対面式ではなく、より語りやすいオンラインにて、死生観を語り合う場を提供する。

日 程 9月11日（日）午前10時～午後0時30分まで

内 容 第一部 「死生観」とは？ 解説：吉川 直人さん
第二部 参加者2グループ分かれて死生観を語り合う。（60分間）

講 師 吉川 直人さん（京都女子大学助教）
小口 千英さん（デスカフェ主宰者・看護師）

場 所 自宅 オンライン（Zoom会議システム）



募集方法 市報8月1日号、チラシ、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター
申込順 電話または直接 図書館貫井北分室へ

対 象 どなたでも

人 数 募集16人
応募12人 受講17人（主催者含む8人と9人の2グループ）

担当職員 公民館貫井北分館 村山 孝一
図書館貫井北分室 田中 肇、新井 剛

担当職員感想 オンラインによる語りやすい環境が、本講座にとって良い方に働いたと思われる。公民館を会場とした対面での講座の使い分けによって、主催講座の新しい可能性を改めて感じた。

参加者感想 ○やはり死と生は表裏一体、死について向き合うことは即ち生きることと無意識に向き合うことなのだと再認識させられました。
○普段考えないテーマで自分が言葉にできたのも貴重な体験でした。こういう機会を作っていただきありがとうございました。
○自分の中の死と生に関する考えを深めることができました。思い残すことのないように日々を大切に生きてゆきたいと思いました。

貫井北分館

図書館貫井北分室 公民館貫井北分館連携事業	第23回ビブリオバトル in ぬくきた
--------------------------	------------------------

目 的 思いがけない本との出会いを企画として、知的書評合戦とも呼ばれる「ビブリオバトル」を、図書館連携事業で開催する。

日 程 8月6日（土）午後2時から4時まで

内 容

- ・「color（カラー）」をテーマに公式ルールに則って開催
- ・発表者6人で順番決め（くじ引き）をし、3人ずつでバトルを2回実施
- ・加者全員の投票により各組でチャンプ本を決定し、賞状を贈呈
- ・発表本をお薦めするポップを作成
- ・ポップ、発表本とともに、図書館貫井北分室で展示

場 所 公民館貫井北分館 学習室A・B

募集方法 市報7月1日号、市HP、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター、カラーチラシ（市内小中学校、小金井北高校、多摩科学技術高校、中央大学附属中・高校、小金井市観光まちおこし協会）、ポスター
申込順 電話または直接 図書館貫井北分室へ ※観覧者は当日先着順

対 象 小学生以上の方

人 数 ①発表者 募集8人 発表 6人
※内訳 大人4人、小学生1人 職員1人
②観覧者 募集15人 参加4人

担当職員 公民館貫井北分館 村山 孝一
図書館貫井北分室 田中 肇、國田 純子



【発表の様子】

担当職員感想 今回も新型コロナウイルス感染症が拡大する中での開催となったため、消毒を入念に行う。発表者および観覧者数が多いに越したことはないが、少人数による開催の良さも感じられた。今後も連携事業として開催し続け、図書館事業と公民館事業の相乗効果を図りたい。

参加者感想

- とても印象に残る内容でした。
- 色々な本に出会える場を紹介する人の熱意で作られ、楽しめました。
- ビブリオバトルの参加者が小学校2年生の方が3回目に登壇されたと聞き、驚きました。内容も良かったです。
- 初めて参加し、とても良いイベントだと思います。参加者がもっと増えるといいな、と思います。
- 自己紹介も司会の取次も名前がはっきり聞きとれませんでした。はっきり、ゆっくり言って下さると嬉しいです。

貫井北分館

図書館貫井北分室 公民館貫井北分館連携事業	いのちを守るゲートキーパーになろう-ゲートキーパー養成講座-
--------------------------	--------------------------------

目 的 図書館貫井北分室・公民館貫井北分館連携事業として、社会問題や人権問題に関連した講座を開催。WHOが定める「世界自殺予防デー（9月10日）」、厚生労働省が定めた「自殺予防週間（9月10日～16日）」の月に合わせ自殺予防として推進されているゲートキーパーについて学ぶ。

日 程 9月10日（土）午前10時から正午まで

内 容 ゲートキーパー養成研修

講 師 有田 茂さん（社会福祉法人川崎いのちの電話 前事務局長）
小原 彰子さん（認定NPO法人東京多摩いのちの電話 事務局長）

場 所 公民館貫井北分館 学習室A・B

募集方法 市報8月15日号、チラシ、ポスター、市HP、貫井北センターHP、貫井北分室Twitter等
申込順 電話または直接 図書館貫井北分室へ

対 象 どなたでも

人 数 募集30人 応募4人 受講7人
※東京学芸大学2年生 社会教育実習生1人
※武蔵野大学1年生 インターンシップ生2人



担当職員 公民館貫井北分館 村山 孝一
図書館貫井北分室 田中 肇、新井 剛

担当職員感想 ロールプレイでゲートキーパーを実践していただくため、参加者同士をアクリル板設置などで感染予防に努める。質疑応答では、ゲートキーパーとしての対応方法、いのちの電話相談員の活動に関して熱心な質問をされている様子から、参加者の人数に関係なく本講座の意義を改めて感じた。

参加者感想 ○教えていただいた心構えを参考に人と接して行きたいと思います。
○言葉と傾聴がいかに大切かを知りました。悩みごとの打ちあけではない場合でも、普段の生活でも生かせると思いました。ゲートキーパーをされている方からの話は、熱意や真剣さが伝わってきて、自分も何かできることがあればやっていきたいと思いました。
○「ゲートキーパーとは、役割、心得、ロールプレイ、質疑応答」を振り返り、日々実践したいと思います。

貫井北分館

(NP0 法人独自事業) 図書館貫井北分室 公民館貫井北分館連携事業	新春に平和を願う～語りとライアー 一の調べのひととき～
---	--

目 的 冒頭、合間、終了時、新春に相応しい音楽をライアー（竖琴）による演奏を聴きながら、小金井市貫井北町周辺の戦争痕を紹介と太平洋戦下における子どもたちの生活の講話を聞く。

日 程 1月18日（水）午後2時～4時まで

内 容 （1）講話 ①小金井市の戦争禍のお話と父親の戦争体験講話
②平和に関する絵本紹介
③参加者（学校図書館員）から平和に関する絵本の紹介
（2）演奏 新春と平和をイメージしたライアー演奏

講 師 安井 広子さん（J P I C読書アドバイザー・「昭和館」次世代の語り部）
浜島 史子さん（竖琴ライアー奏者・声楽家）

場 所 公民館貫井北分館 学習室A・B

募集方法 市報8月1日号、チラシ、ポスター、市HP、貫井北センターHP、
公民館貫井北分館ツイッター、図書館貫井北分室ツイッター
申込順 電話、メールまたは直接 図書館貫井北分室へ

対 象 平和の絵本に関心のある方

人 数 募集30人 応募30人 受講30人

担当職員 公民館貫井北分館 村山 孝一
図書館貫井北分室 田中 肇、庄司 由利子



担当職員感想 連日のニュース等での報道から、今年度は特に「戦争」と「平和」の意味について考えさせられている。講師からの話を聞くだけでなく、ライアー演奏によって、その意味を深く整理する時間にもなった。

参加者感想 ○ライアーのやさしい音楽の流れる会場を設定なさり、準備の行き届いた企画に感じ入りました。朗読会の発表会で戦争と女性と子ども作品を読んでいますので、その舞台に学ぶ時間を頂きました。
○文部省唱歌についても戦争の影響を受けていることを改めて感じた。学徒動員の様子をお伺いできて、当時の様子を知ることが出来た。
○平和について考える機会となりました。ありがとうございました。
平和の心でライアーの調べを聞くことができました。

貫井北分館

(NP0 法人独自事業) 図書館貫井北分室 公民館貫井北分館連携事業	第24回ビブリオバトル in ぬくきた
---	--------------------------------------

目 的 思いがけない本との出会いを企画として、知的書評合戦とも呼ばれる「ビブリオバトル」を、図書館連携事業で開催する。

日 程 2月11日（土）午後2時から4時まで

内 容

- ・「スイーツ」をテーマに公式ルールに則って開催
- ・発表者4人で順番決め（くじ引き）をし、バトルを1回実施
- ・参加者全員の投票によりチャンプ本を決定し、賞状を贈呈
- ・発表本をお薦めするポップを作成
- ・ポップ、発表本とともに、図書館貫井北分室で展示

場 所 公民館貫井北分館 学習室A・B

募集方法 市報1月1日号、市HP、貫井北センターHP、図書館貫井北分室ツイッター、公民館貫井北分館ツイッター、カラーチラシ（市内小中学校、小金井北高校、多摩科学技術高校、中央大学附属中・高校、小金井市観光まちおこし協会）、ポスター
 申込順 電話または直接 図書館貫井北分室へ ※観覧者は当日先着順

対 象 小学生以上の方

人 数 ①発表者 募集8人 発表4人
 ※内訳 大人2人、小学生1人 職員1人
 ②観覧者 募集30人 参加9人

担当職員 公民館貫井北分館 村山 孝一
 図書館貫井北分室 田中 肇、國田 純子



担当職員感想 今回もコロナウイルス感染症が拡大する中での開催となったため、消毒を入念に行う。発表者および観覧者数は多いに越したことはないが、少人数による開催の良さも感じられた。

参加者感想

- テーマがあって、あらすじを話すだけではなく、色々な角度から話すのがおもしろいと思いました。
- 参加している方が、このイベントを大切に楽しみにしていらっしゃるようで、読書好きの方は大勢いらっしゃると思いますのでもっともっと盛会になれば……と思います。
- 自分の知らない本を知るきっかけになり読書の幅が広がると思う。

貫井北分館

(NP0 法人独自事業)図書館 貫井北分室 公民館貫井北 分館連携事業	「絵本と鳥の巣のふしぎ ～鳥の巣が教えてくれること～」
--	--

目 的 鳥の巣について学ぶだけでなく、絵本のことや制作秘話を講師から話を聞く。

日 程 3月12日（日）午後2時～4時30分

内 容 ホワイトボードをフル活用した講義
鳥の巣20個を実物展示、絵本展示、講座後にサイン会

講 師 鈴木 まもるさん（画家・絵本作家・鳥の巣研究家）

場 所 公民館貫井北分館 北町ホール

募集方法 市報2月15日号、貫井北センターHP、貫井北分館ツイッター
カラーチラシ（市内小中学校、小金井北高校、多摩科学技術高校、中央
大学附属中・高校、東京学芸大学）、ポスター
申込順 電話、メールまたは直接 図書館貫井北分室へ

対 象 市内在住・在勤・在学の方

人 数 募集50人 応募50人 受講 37人

担当職員 公民館貫井北分館 村山 孝一
図書館貫井北分室 田中 肇、白鳥 弥美



担当職員感想 受付初日から申込みが多くすぐに定員に達したが、当日のキャンセルが多かったのは残念であった。ホワイトボードをフル活用し、大人だけでなく参加されたお子さんも楽しんでいた。

貴重な巣を展示していただいただけでなく、参加者全員に触れさせる機会もあり、参加者が喜んでいる姿から満足度の高さが伺えた。

参加者感想

- 講師の個性と巧みな話術で、自然生態と人間社会の類似性に気づくことができました。
- 鳥の巣の話は大変面白く、あれだけ色々な種類の巣があるとは思いませんでした。
- このような素晴らしいイベントを企画して頂き、有難うございました。2時間半では足りない、面白くためになる、講演でした。
- 鈴木さんのトークが面白くあっという間に時間が経ってました。鳥の巣については、今まで全く興味はなかったですが、講演参加後は鈴木さんの書かれた絵本を読んでみたくなりました。